

序

2015年6月26日から28日にかけて、パシフィコ横浜において、第60回日本透析医学会学術集会・総会を開催させていただきました。2万2千人を超える会員や関係者の皆様から深い感銘と賞賛の声をいただきました。

この学術集会では、「医理工連携と透析医療」をテーマとして、透析技術の進歩を振り返りながら、透析効率やモニタリング技術および最新の透析療法に関する情報を提示するとともに、透析療法に伴う合併症の診断・治療の進歩、透析患者の看護についての最新のアプローチを紹介しました。

統計調査委員会と学術委員会の共同企画により、日本透析医学会が蓄積してきたレジストリーから、世界への情報発信に一端を担ってもらいました。本学術集会終了後に、この膨大な学術的資産を何らかの形で残す必要性にかられました。その結果、本書「最新透析医療：先端技術との融合」を編集することになりました。すべての話題を包含することが困難なため、編集メンバーで内容を吟味させていただきました。

日本はアジア地域の重要な一角を占めていることから、アジアにおけるリーダーシップの確立がきわめて重要であると思います。本学術集会においては、アジア地域における交流を活発にし、透析医療の水準を高める努力をいたしました。国際学術交流の一環として、アジア若手透析医のための企画をし、より緊密な人材交流の機会を設定し、学術雑誌の編集も行いました。

透析医学が発達した日本では、世界で類をみない程のスピードで高齢化が進んでおり、高齢者に対する透析医療が問題になっています。倫理的な側面から透析非導入を考えることや医療経済を考慮した治療システムの再構築は避けて通れない課題と考えられます。保険診療あるいは在宅医療の観点から問題点を抽出し、解決策を探るような執筆もお願いしました。

最後に、本書の基盤となりました第60回日本透析医学会学術集会に対して、多大な貢献をいただきました企画委員会およびプログラム委員会の諸先生、ならびに本学術集会の運営において重責をはたしていただいた土谷 健先生と峰島三千男先生に心から深謝申し上げます。また、本書の制作にあたっては、株式会社医薬ジャーナル社編集部の多大なる協力をいただきました事を付記し、感謝の言葉にかえさせていただきます。

2015年11月

東京女子医科大学第四内科学教授・講座主任

一般社団法人日本透析医学会理事長

第60回日本透析医学会学術集会・総会会長

新田 孝作（東京女子医科大学第四内科学講座主任教授）